

令和6年度 [果実の概況]

本年の果実は、記録的な高温と、カメムシ等の被害を受け出荷量の少ない品目が目立ちます。
みかん、りんご等、10～11月 産地の高温影響もあり、着色の遅れが見られますが、年末に向けて出荷も回復に向かう見通しです。
輸入果実は輸送の不安定要素に加え、円安の影響を受け昨年同様入荷減の単価高での推移となります。

果実概況担当 丸果旭川青果卸売市場 取締役 和田 明 (果実部直通48-3232・3233)

主品目	主力産地	前年対比		市況予想 (Kg 単価)	概況
		入荷量	市況		
みかん	愛媛、静岡、和歌山、熊本	減	高い	600～400	夏場の高温影響を受け出荷量減少、単価高の見通しです。
りんご	青森	減	高い	800～600	夏場の高温影響を受け出荷量減少、単価高の見通しです。
いちご	茨城、宮城、福岡	減	高い	3000～2000	年末需要に向けて出荷量増えますが、前年より少なく、単価高の見通しです。
干柿	長野、和歌山、山形、福島	やや減	やや高い	3000～2500	平年より生産量はやや少なく、やや高めの見通しです。
キウイ	和歌山、愛媛、ニュージー	減	やや高い	750～600	年内は輸入品中心ですが、年明けより国産の出荷、出荷量減少傾向です。
バナナ	フィリピン、エクアドル	並	並	400～200	入荷量は前年並み、価格も前年並みの見通しです。
パイナップル	フィリピン	並	高い	240～200	入荷量は前年並み、輸送費等の高騰を受け単価高傾向です。
グレープフルーツ	フロリダ、メキシコ	減	高い	600～400	入荷不安定で少ない状況、単価高傾向です。
オレンジ	オーストラリア、アメリカ	並	やや高い	500～400	入荷量は前年並み、円安の影響でやや高い見通しです。